

様式第2号（第8条関係）

審議会等会議録

会議の名称	令和7年度 第1回 加須市総合教育会議
開催日時	令和8年1月30日（月） 午後1時30分から午後2時33分まで
開催場所	加須市役所 本庁舎3階 庁議室
議長氏名	角田 守良 市長
出席委員	角田 守良 市長、小野田 誠 教育長、 遠藤 康江 教育長職務代理者、猪股 富美子 教育委員、 松永 修 教育委員、片山 上総 教育委員（6名）
欠席委員	秋山 哲也 教育委員
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 （1）魅力ある学校づくりについて 4 閉会
会議資料の名称	・ 次第 ・ 総合教育会議名簿 ・ 資料1 「加須市魅力ある学校づくり審議会」審議の経過について ・ 資料2 本市が目指す「魅力ある学校像」のイメージの具体化
会議の公開又は 非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴者の数	なし
説明者の職・氏名	教育長 小野田 誠、魅力ある学校づくり推進室長 鈴木 大輔
事務局職員職・氏名	副市長 萩原 利一、総合政策部長 石井 幸子、 生涯学習部長 齊藤 千恵美、学校教育部長 中島 高広、 政策調整課長 瀬田 博之、教育総務課長 矢部 良貴、 魅力ある学校づくり推進室長 鈴木 大輔、 学校教育課長 高橋 一也
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 <input type="checkbox"/> 全文記録
その他必要な事項	

様式第3号（第8条関係）

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
事務局（瀬田政策調整課長） 角田市長	1 開会 2 あいさつ
事務局（瀬田政策調整課長）	この総合教育会議は法律により原則公開とされておりますが、傍聴を希望される方はおりません。 本日の会議録の署名委員について、名簿順で片山委員にお願いしたいと存じます。
各委員	（了承）
事務局（瀬田政策調整課長）	議事の進行については、加須市総合教育会議運営要綱第4条の規定により、会議の議事は市長が進行すると定められておりますので、角田市長に議事の進行をお願いしたいと思います。
角田市長（議長）	3 議題（1）魅力ある学校づくりについて それでは、これまでの進捗などについて、はじめに、教育長から資料1のご説明をお願いします。
小野田教育長	（資料1について説明）
角田市長（議長）	次に、鈴木魅力ある学校づくり推進室長から資料2のご説明をお願いします。
鈴木魅力ある学校づくり推進室長 角田市長（議長）	（資料2について説明） 資料の説明は以上となります。ご意見などございますでしょうか。
遠藤教育長職務代理者	審議会の皆さんが、本当に熱心に意見交換をされている様子をお聞きして、ゼロの状態からイメージを作りだして、実際に学校にどうつなげていくのかというのは、非常に難しいことだろうと思います。 学校の再編について、地元の方から話をされたことがありました。ご自身が通っていた小学校に、将来、自分の子どもを通わせることについて、児童数が少ないということで、学校が再編され、一定の児童数が確保されるまでは、別の場所にアパートを借り、他の地域の学校に通うような話をされておりました。その方は、自身の体験として、大人になり、社会に出てから少人数の学校生活に思うところがあったようです。 そのような具体的な話が出始めたこともありますが、もう少しスピードアップして再編が進むとよいと思う気持ちがあります。
猪股教育委員	少し前までは学校の再編について、計画としてまとまっていくのかという心配がありましたが、「魅力ある学校づくり推進室」が立ち上がり、加速度的に進んでいることに感謝しております。 加須市の地域密着型の教育というのは、県内でも素晴らしい成果が

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
松永教育委員	<p>出ているものと認識しています。そこはそのまま継続していただきたいと思います。</p> <p>また、公立幼稚園がこれだけ質の高い状態で維持され、就学時前から中学校まで一貫した教育を推進していることは素晴らしいと思います。</p> <p>この2つの点は、継続しながら、よりバージョンアップし、魅力ある学校づくりを進めていただきたいと思います。その際、行政頼みになることなく、市民がイニシアティブを持って進めてほしいと思います。</p> <p>学校づくりはコミュニティづくりにありますので、教育委員会が先頭になることは当然だとは思いますが、市民自ら発信して地域づくりを考えていくという進め方をしていただきたいと思います。</p> <p>魅力ある学校づくりの「魅力」は主観的な言葉ですが、審議会の報告を通じて多様な視点の意見が集まり、キーワードとして整理されたことで、何に魅力を感じているのかが分かりやすくなりました。</p> <p>私は、魅力ある学校づくりは、目的そのものではなく、目的を達成するための方策だと捉えています。教育条件・環境を整えたり教育活動を充実させたりすることは手段であり、それが効果を発揮して、そして、目的を達成して初めて成功と言えます。</p> <p>そのため、「どのような学校づくりをすべきか」を考える際は、常に「どんな子どもたちを育てるのか」という目的に立ち戻ることが大切と考えます。</p> <p>加須市の教育の目的は、教育大綱にあるとおり「人づくり」であり、現在策定を進めている第3次人づくりプランの中でも、目指す理念は「家族・地域の絆を大切に、生きる力を醸成する」としています。「生きる力を醸成する」については、教育委員会でも協議しており、「生涯を通じて、自らの人生を主体的に切り拓いていく総合的な力を育むこと」と整理しています。私は、「生きる力」を、人間性を含む総合的な課題解決の能力であり、自分で、さらには、協働してよりよく課題を解決できる資質・能力と捉えています。</p> <p>学校教育として目指す子ども像は、魅力ある学校づくりの基本方針に示された3項目で、これは「生きる力」を分かりやすく具体化した内容になっています。この3項目を備えた子どもを育てることが、魅力ある学校づくりの目的であることを意識して進める必要があります。</p> <p>一方で、極めて小規模な学校は、一人一人に活躍の場があり、個別指導を通じて知識・技能や思考力等を確実に伸ばすなど、小規模ならではの魅力があります。しかし、子どもの数が少ないことで、適切な集団で協働し、課題解決に取り組む環境を十分に提供できず、市が目指す子ども像の実現に必要な条件が整えられていない点が課題になります。</p> <p>今後、このような学校が増える可能性も踏まえ、目的の達成に向けて効果的な方策となるよう議論を尽くして進めたいと考えます。</p> <p>なお、協働で課題を解決する力は学校だけでなく、地域や社会とのつながりの中でも育まれますので、小規模な学校の子どもたちに、そ</p>

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
片山教育委員	<p>の力が身に付いていないというわけではありません。 今回の資料の内容を生かし、常に目的と照らし合わせながら、魅力ある学校づくりの取組を進めていきたいと考えています。</p> <p>これまで教育委員会定例会でも、多くの時間をかけ、議論をさせていただきました。現在は審議会の方に審議は移っておりますが、順調に進んでいるということで、非常に安心しているところです。</p> <p>私の考える加須市の学校像ですが、基本的には、現行路線の継続がよろしいかと思っております。</p> <p>これは2つありまして、1つは、合併して15年、その合併前からあるかと思いますが、この地域密着型のスタイルを今まで築き上げてきたと思しますので、それをうまく受け継いで、これからもつなげて行っていただきたいと思っております。</p> <p>もう1つは、この時代の変化に併せて、改革・改新や見直しもしてきたと思しますので、この2点をこれからも進めていっていただければ、バランスがよいかと思っております。</p> <p>縦軸の継承と横軸の時代に合わせた改革の縦横のバランスをうまく保っていただけると、学校運営の方もうまくいくのではないかと期待しているところです。</p> <p>そして、子どもたちに対しましては、こういった時世ですので、非常に期待することが大きい、求めることがたくさんになってきていると思っております。</p> <p>学校は、将来、子どもたちが柔軟に対応できるような人間を育てる、育む場所なのかと思っております。そのためにも、政策づくりや環境づくりが非常に重要なと思っております。その中で、課題と言いますと、事務方と現場とのギャップです。その点をうまく織り込みながら、先ほどの政策や環境づくりの方に注力していただけたらよいものができるかと思っております。</p>
角田市長（議長）	<p>それぞれの視点から、様々なご意見をいただきました。 また、これまでの教育委員会定例会の中でも様々なご議論があったとのことでした。</p> <p>ポイントになってくるのは、資料2であればキーワードの具体化だと考えられます。</p> <p>そして、魅力ある学校づくりに向けた柱とキーワードが整理されていくと、児童生徒数やクラス数、校舎の規模につながっていくことだと思っております。</p>
小野田教育長	<p>この資料2の議論は、教育委員会定例会でも審議会でもあったものですが、キーワードの中で「確かな学力」や「主体的な学び」、「多様な人材との連携」など、これはどのような学校でも、どのような学校規模でも、やらなくてはいけないことです。</p> <p>いわゆる教育にとっては、不易の部分であります。一方で、「協働的な学び」など、協働で取り組むようなことは、規模感や人数が必要になってくるのだらうと思っております。</p> <p>また、「地域との連携・協働」や「地域の見守り」を進めていくに</p>

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
遠藤教育長職務代理者	<p>当たって、地域コミュニティと学校がどのように融合していくのか、これが加須市ならではの柱になるので、これから学校再編を検討していくときに、ここに地域性が入ってきたり、特色が入ってきたりするのだと思います。</p> <p>地域との連携、地域密着型をどのようにするか、どのような範囲にするかなど、これからの審議の柱になってくると考えます。</p> <p>再編することによって、自分たちの地域に学校がなくなってしまう可能性もあります。それでも、地域と一緒に支えていく学校でなくてはいけないと思います。</p> <p>再編し、少し遠くにはなってしまったけれども、皆さんでこの学校を支えましょうというような、そういう地域の方たちの協力というのは、継続していただけるようにならないといけません。</p>
角田市長（議長）	地域の範囲、いわゆる学区の範囲にもよるのでしょうか。
遠藤教育長職務代理者 小野田教育長	<p>あまりにも広いと登下校の見守りも影響は出ると考えられます。</p> <p>仮にですが、学区が広がるとスクールバスの導入などの話が出てきますが、全ての児童生徒がスクールバスを利用するものでもないと思いますので、登下校の見守りの役割や効果はあるのだと思います。</p> <p>どこまで地域の人が、地域の学校だと思ってくれるかということがポイントと言えます。</p>
角田市長（議長）	<p>学校規模を考えたときに、資料2のキーワードの中に、規模にかかわらず普遍的なものもあれば、一定の児童生徒数が必要なこともあるのだと思います。</p> <p>各キーワードが占めるウェイト付けや更なる仕分けが、今後のポイントになるように感じます。</p> <p>また、昔から教育は「知・徳・体」だと言われていますが、これが基本なのだとも考えますので、これが学校はできないといけないのだと思います。</p>
松永教育委員	<p>資料2は、出された意見を分類した状態ですので、今後、焦点を絞って更に深く議論していくことが必要だと思います。</p> <p>地域との連携や協働についても、例えば、地域として協働・連携していけるのか、子どもたちを育てる態勢をつくることのできるのか、そのことを考えることが、地域を分ける際の目安になってくると思います。</p> <p>子どもたちを育てるという目的に向かうには、どのような方法、どのような方向がよいのかという視点で、焦点を絞って審議していくことが必要と考えます。</p>
猪股教育委員	「知・徳・体」は教育の基本であるべきですが、今後、令和型の自分で課題を見つけて、課題を解決する力がないと、本当の意味での生きる力にはならないと思います。

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
	<p>「知・徳・体」にプラスアルファで、どのような要素を持ってくるかで、加須の教育の新たな特色になると思います。</p> <p>また、現状あるコミュニティや慣習を踏まえて、地域に受け入れやすい形で線引きしようとするのは、なかなか難しいと考えます。</p> <p>市町合併し、時間が経っていることもありますが、この魅力ある学校づくりをきっかけに、学校発信で新しい連携の在り方、地域づくりを提案していくのもよいと思います。</p> <p>学校として、積極的に地域に関わる機会にもなると思います。</p> <p>学校にかかわらず、これまでも区分け、地域割りで、課題もたくさん出てきています。だからこそ、学校発信で持続可能なコミュニティ作りを進めて行くことで、自ずと受け入れやすい形ができるのではないのでしょうか。</p> <p>学校を核にして地域をつくるという先進事例もありますし、考えてよいと思います。</p> <p>今回の魅力ある学校づくりというプロジェクトは、市長部局の様々な部局と連携しないと成功は難しいでしょう。</p>
角田市長（議長）	<p>教育委員の発言を踏まえて、資料2に新たなキーワードを加えた方がよいのではないのでしょうか。</p>
鈴木魅力ある学校づくり推進室	<p>資料2については、現在、学校長や教職員にも意見を聴いているところです。教育委員の意見も加え、更にバージョンアップしたいと考えています。</p>
松永教育委員	<p>「生きる力」自体は、確かに「知・徳・体」の3つの要素からなっていますが、この3つの要素を総合的に活用して、よりよく課題を解決する能力と捉えた方がよいと思います。</p> <p>また、地域性ということがありますが、実際に学校ができると、その学校に協力しようという態勢ができ、自分たちの学校を応援しようという機運が高まっていくことも期待できると思います。</p> <p>これまでの考えで学区を線引きし、考えを固めてしまっていて進めて行くより、機運ができてくることに期待して、そこに向かうような雰囲気を作っていくということも大事だろうという気がします。</p> <p>地域性を優先し過ぎると、こどもたちを育てるという目的に対してマイナス面が出てきてしまうこともあると思います。こどもたちを中心に据えながら考えをまとめて、後から機運を高めるということもあると思います。</p>
角田市長（議長）	<p>審議会からの意見などを確認して見ると、学校の単位などを区切るに当たって、地形地物でという意見があまりないのだと感じました。</p> <p>例えば、現在、市が策定中の都市計画マスタープランであると、大きな道路や河川、具体的には、東北自動車道や利根川などで地域を分ける考えがあります。</p>
小野田教育長	<p>ブロック分けなど、今後、各論として具体化してくるので、これから意見が出てくるのだと思います。</p>

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
片山教育委員	北川辺地域にとって、特に利根川の存在は大きいものです。
角田市長（議長）	本日の皆さんの意見を資料2に加えていくと、よりよいものとなりそうです。
斉藤生涯学習部長	学校長や教員、本日の皆さんの意見をまとめていきます。引き続き、お気付きの点があればご意見いただきたいと思います。
角田市長（議長）	事務局は、よりよい資料となりますように、今後、調制作業をお願いします。 他にご意見等はないようでございますので、本日の議事は終了とします。 それでは、司会を事務局に戻します。
事務局（瀬田政策調整課長）	4 閉会 皆様には、ご忌憚のないご意見とご協議をいただき、誠にありがとうございました。 以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。
<p>会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。</p> <p>令和 8 年 2 月 19 日</p> <p>署名 <u>片山 上 系 急</u></p>	